

海の中で “知恵の輪”

ダイバーによる釣り糸の回収

文・写真

東 真七水

text & photo by Manami Azuma



「スキューバダイビング×ゴミ拾い」水中ごみ拾いを専門としたダイビングゲシヨップ、「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングインストラクターを務める東真七水です。海底に沈んだゴミを楽しみながら回収し、水中ゴミ拾いをマリンアクティビティとして広める活動をしています。

珊瑚に絡まる釣り糸の問題

沖縄県内の海の中でよく見かけるゴミの1つに、釣り糸が挙げられます。海中の岩や珊瑚に引っかかることで糸が切れてしまうので、やむをえず海に残されてしまいます。1つの珊瑚に複雑に絡み合っているものもあれば、2つ以上の珊瑚に跨り、広範囲に広がっているものもあります。また、長く放置された釣り糸においては珊瑚に取り込まれ、その上に珊瑚が成長していきます。そのため写真（右下）のように釣り糸が珊瑚にコーティングされたような状態になります。こうなってしまうとは、力任せに引つ張ると折れてしまい、傷つけることになるので、珊瑚に取り込まれた釣り糸部分はそのままにし、まだ取り



釣り糸を取り込み成長した珊瑚

込まれていない部分のみを切り取るのがベストな回収方法とされています。いずれにせよ釣り糸回収はある程度のダイビングスキルを要し、また絡まり方や釣り糸の長さによっては非常に時間がかかるため、Dr・blueでは最も回収が難しいゴミとしています。

厄介な釣り糸問題ですが、Dr・blueでは楽しく回収するよう心がけています。実際やってみると、適度な難易度があるからこそ、まるで知恵の輪にチャレンジしているような面白さがあります。一人では大変な場面もありますが、バディと助け合って一緒に回収することで、チームスポーツのような達成感も生まれます。そんな独自の魅力を発信することで、海にやさし

い知恵の輪ゲームとしてダイバー間に広まればいいなと思っています。

また、釣り人を責めたいわけではありませんが、海中ではこのような状況になっていくようなことを、個人的には知ってもらいたいです。釣り中は根掛かりしないように特に気をつけたら、帰り際に落ちていたゴミを拾ったりなど、海に対してギブ・アンド・テイクのようなマインドを持つことが大事だと思っています。私も同じ海好き、海にお世話になってる者として、毎日ゴミ拾いを欠かしません。皆さんも海に行く際は、そのような考え方を持ってゴミ拾いをしてみませんか。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa

